滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科
入試問題（造形実技）参考解答集

造形実技試験の解説

本学科では，一般選抜（後期日程）において造形実技試験を行っています。

・試験時間：120 分
・大学で用意するもの：デッサンボード（解答用）　ほか
・受験生が用意するもの：黒鉛筆，消しゴム，羽根ぼうきまたはブラシ

令和 3 年度の造形実技試験では，以下の 5 項目について評価を行いました。

・理解力：試験問題の指示内容を正しく理解できているか。
・構想力：明確な考えにもとづく解答が示されているか。
・創造性：ありきたりの解き方ではなく，創意工夫や独自性が作品に見られるか。
・構成力：構成の意図が明快で審美性のある空間となっているか。
・表現力：質感や陰影の表現にすぐれているか。また，視点や視界の設定にすぐれているか。

次のページから、過去に出題した問題の解答例を参考にして，ポイントを解説します。

滋賀県立大学　入試情報　　http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/nyushi/index.html

環境科学部　　http://www.ses.usp.ac.jp/

環境建築デザイン学科　　http://dda-usp.com/

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科　入試問題（造形実技）参考解答集
令和 3 年度一般選抜（後期）試験

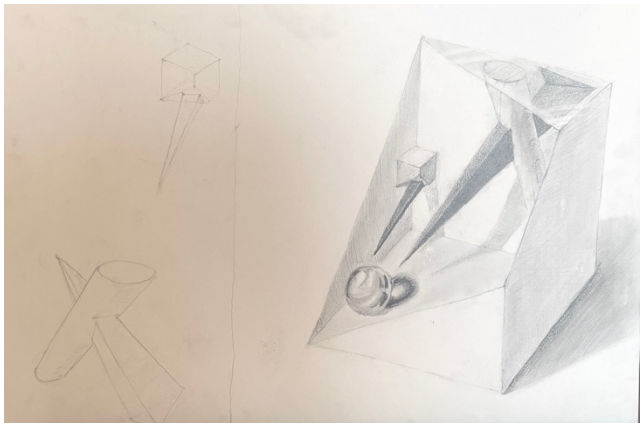
【問題】 次の文章を念頭においた空間を構成せよ。解答にあたっては＜手順 1＞＜手順 2＞の指示に従い，デッサンボードの画面を分割して描け。問題に明記された内容以外のことについては，自由に設定してよい。

一辺が 5 メートルの立方体の箱が、平坦な地面に置かれています。この箱には一箇所だけ大きく切り取られた穴があり，穴から入る光で箱の内部の様子がわかります。

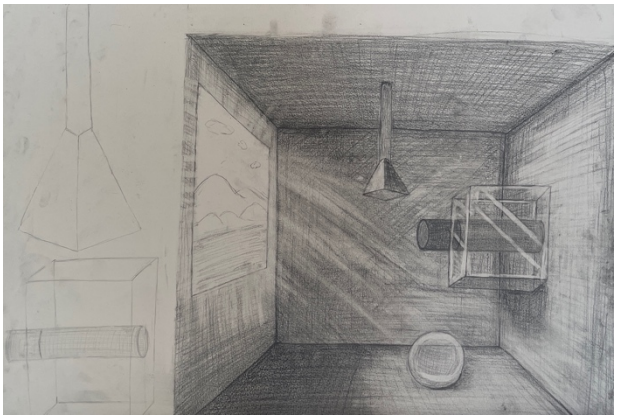
箱の内部には，形も大きさも異なる 3 つの立体が存在しています。その 1 つは床面に置かれた直径 1 メートルの球です。残りの 2 つの立体のうち，1 つは壁面に，1 つは天井面に取りつけられています。

＜手順 1＞　箱の内部にある 3 つの立体のうち，球以外の 2 つの立体の形状を考案し，それぞれをデッサンボードに描け。

＜手順 2＞　＜手順 1＞で考案した立体を含む 3 つの立体と，穴から差し込む光を念頭において，箱の内部空間を描け。描画にあたっては，構成の意図や特徴を表すうえで，ふさわしい視点を設定せよ。



解答例 A



解答例 B

理解力：問題の指示内容を正確に把握し、デッサンボード内を過不足なく用いています（A，B）。

構想力：球を起点にした立体群の配置に迷いがなく、構成が明快です（A）。住まいを想起させる要素と他の要素の配置のバランス感覚に優れ、まとまりのある空間が意図されています。

創造性：球と対照的な鋭さのある立体を考案し、箱に取り付く箇所に造形的な工夫がみられます（A）。箱の側部に付いた立体を透明な物体で囲い、壁面との対比を強調しています（B）。

構成力：2 つの立体が球を指し示す様子が、箱の切り取り方によって強調されています（A）。箱に開けられた窓の位置や大きさが、立体を照らし出す光に説得力をもたせています（B）。

表現力：空間の特徴を客観的に把握し、適切な視点を選べています（A・B）。シャープな立体を際出せる箱内部の陰影が秀逸で、後方の影も自然な濃淡を有しています（A）。アイレベルに視点を設定し、窓の外も含めた一体感のある構図となっています。ただし、光線の表現方法には一考の余地があります（B）。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科　入試問題（造形実技）参考解答集
令和 2 年度一般選抜（後期）試験

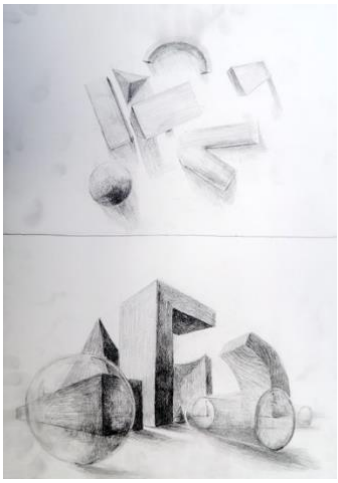
【問題】次の文章を念頭においた空間を構成せよ。解答にあたっては＜手順 1＞＜手順 2＞の指示に従い，デッサンボードの画面を分割して描け。問題に明記された内容以外のことについては，自由に設定してよい。

ある広がりを持つ平面上に，私は立っている。上空からさんさんと光が降りそそぐ空間である。

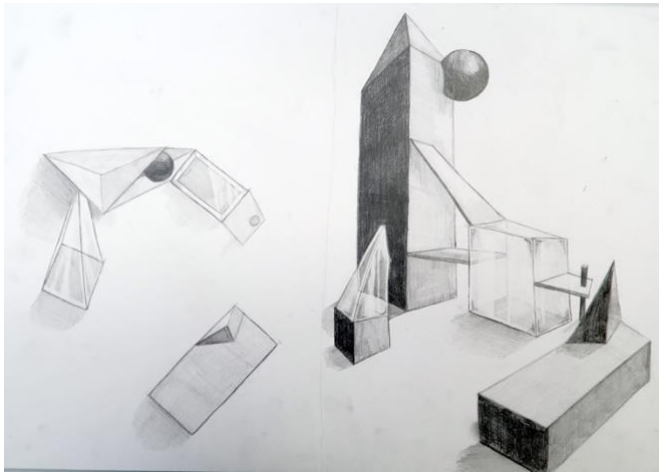
平面上にはいくつかの立体が置かれている。立体の大きさ，形はまちまちである。立体の高さは最大で 3 階建てのビル程度，最小で軽自動車一台分程度であろうか。立体と立体の距離もさまざまで，人々が集い自由に活動できる広がりもあれば，小道のような隙間もありそうだ。

＜手順 1＞立体の配置の全体像がわかるように，平面を真上から見た図を描け。

＜手順 2＞＜手順 1＞で構成した空間を見た様子を描け。描画にあたっては，構成の意図や特徴を表すうえで，ふさわしい視点を設定せよ。



解答例 A



解答例 B

理解力：構想した空間の全体像を理解し，手順を守るなど問題の指示内容が把握されています（A，B）。

構想力：シンプルな立体の配置にしろ（A），立体を積み上げた複雑な構成にしろ（B），問題の文意に沿って明快な構成の空間が構想されています。

創造性：高さのある立体を象徴的に取り入れることで，垂直方向の空間を構成しています（A）。また，主だった立体に三角錐を取り入れることで，統一感をもった造形が創造されています（B）。

構成力：極端な立体の造形に走らず，立体と立体の間隔に多様さをもたせた構成です（A・B）。L 字型の立体と，湾曲した立体の関係によって，空中での距離感まで意図した高度な構成となっています（A）。規模や形が異なる立体を配置することによって、広がりをもつ場が生まれています（B）。

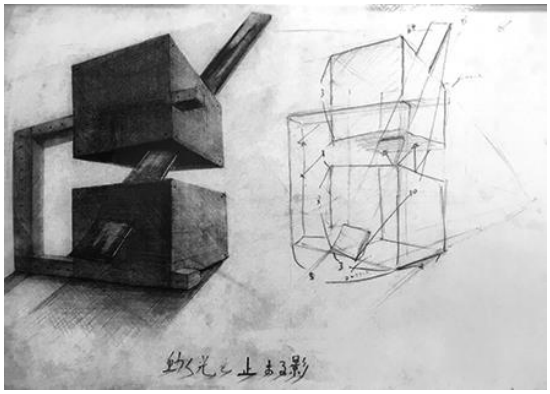
表現力：構成する立体にあわせて透明感や量感を変えています（A，B）。また，手順 1 で配置を明快に表現し，手順 2 で広がりや隙間を強調した構図をとるなど，巧みな表現力が認められます（A・B）。中央の立体では陰影の強調によって力強さを表現するとともに，画面奥に見える三角錐を細部まで描き込んでいます。全体にまとまりを持たせつつ空間構成の意図を明示した描画です（A）。立体を縁取った線が、やや戯画的な印象を与えてしまっています（B）。

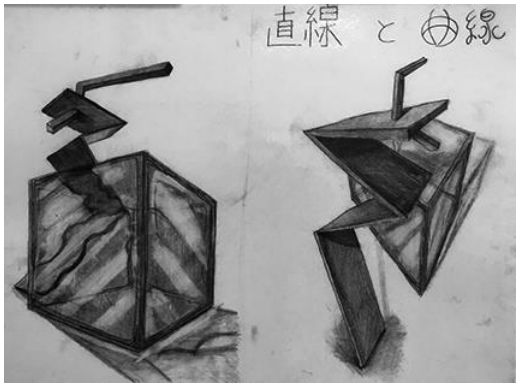
滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科　入試問題（造形実技）参考解答集
平成 29 年度一般選抜（後期）試験

【問題】以下の手順にしたがって，デッサンボードに表現せよ。

＜手順＞1．次に述べる空間を構想せよ。まず，下記の 3 種類の立体があると想定せよ。これら 3 種類の立体を組み合わせて，「静（せい）と動（どう）」という言葉から想起される空間を，デッサンボードの半分の画面に下書きスケッチをすることで構成せよ。 長さ 10,000mm，幅 1,000mm，厚さ 100mm の直方体，長さ 5,000mm，幅 300mm，厚さ 300mm の直方体，1 辺の長さが 3,000mm の立方体　2．手順1で構成した空間の全景を，デッサンボードの残り半分の画面に表現せよ。 3．空間の構成の意図を表すタイトルを考案し，手順 2 で空間の全景を表現した画面のどこかに表現せよ。タイトルの字体，字数，配置は自由とする。

＜留意点＞a.立体の組み合わせ方を工夫すること。 b.視点や構図をよく考えてデッサンボードに描くこと。 c.陰影や質感を表現すること（手順 2）。d.タイトルについても，その表現や配置をよく考えること（手順 3）。 e.下書きのスケッチも含むデッサンボードに表現された全てのものを評価の対象とする。f.上記の手順に明記された内容以外のことについては，自由に設定してよい。





解答例：　A　　B

理解力：手順 1 の下書きスケッチがなく，問題の指示内容が守られていません（B）。

構想力：板状や棒状の直方体で「動」を，立方体で「静」を表現し，双方を対比させるという明確な意図が表れています（A，B）。その意図が下書きスケッチにも見られます（A）。

創造性：板状や棒状の直方体を折り曲げて，動的な表現を強める創意工夫が認められます（B）。

構成力：2 つの立方体を斜めの直方体が貫通するというダイナミックな空間構成となっています（A）。ボリューム感のある立方体に対して，板状と棒状の直方体の組み合わせが対置され，異質な形態の対照が際立つ構成となっています（B）。

表現力：立体の量感（A）や透明感（B）をはじめ，双方とも陰影や質感の表現に優れています（A，B）。空間を見上げるような視点で描かれており，迫力のある表現となっています（A，B）。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科　入試問題（造形実技）参考解答集
平成 31 年度一般選抜（後期）試験

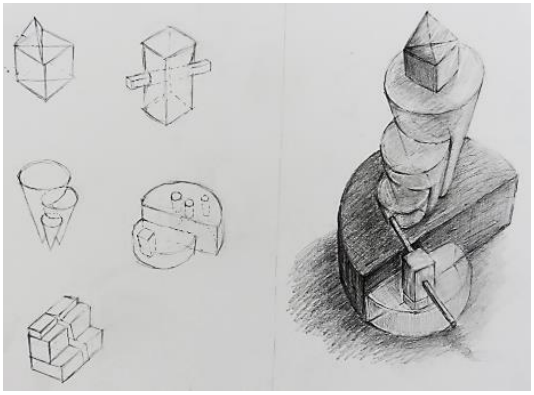
【問題】「集合知」に関する次の文章を読んで，立体を描き，その立体を用いた空間を構成せよ。立体と空間は，＜手順 1＞＜手順 2＞の指示に従って，デッサンボードの画面を適宜分割して描け。問題に明記された内容以外のことについては，自由に設定してよい。

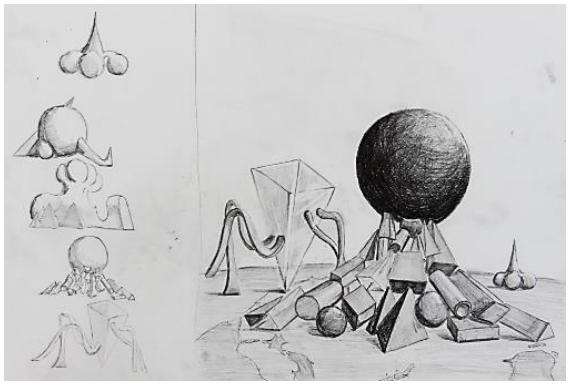
（「文章」は，本学事務局にて閲覧できます。）

（東浩紀『一般意志 2.0』，講談社，2011 年　より一部改変）

＜手順 1＞上記の「集合知」に関する文章を念頭においた立体を 5 案以上描け。

＜手順 2＞手順 1 で描いた立体の中からいくつかを選び，下線部の内容から想像される空間を構成せよ。





解答例：　A　　B

理解力：立体案の数や，そのいくつかを用いた空間の構成など，問題の指示内容が守られています（A，B）。

構想力：多様な立体の組み合わせからなる空間（A）や，様々な個の集合で立体を支持している構成（B）など，設問から想像した空間構成の意図が，明確に表されています。

創造性：手順 1 において，近い形のものを，大きさを変えて組み合わせるなど，設問を念頭においた立体が案出されており，手順 2 でそれらを集合することで，多様性と一体感が生み出されています（A）。

構成力：大きな 1 つの球を，小さな立体群が持ち上げている構成により，力強さと緻密さが際立つ空間構成となっています（B）。

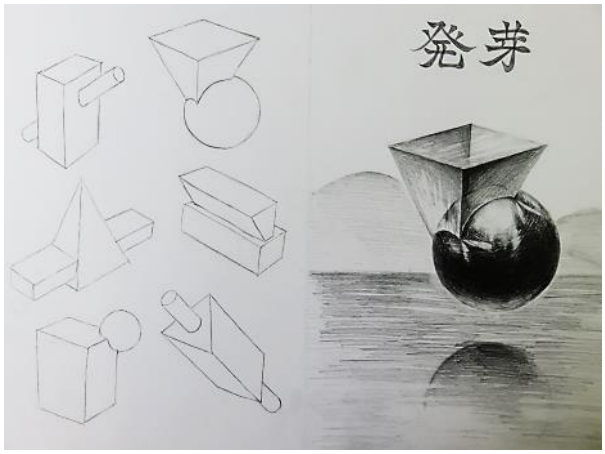
表現力：構成する要素にあわせて透明感や量感を変えています。また，陰影等の表現も優れています（A，B）。上記の「構想力」に挙げた空間構成の意図がわかるように，全体の構成を俯瞰した視点（A）や，支えている様子を見上げた視点（B）が設定されており，迫力のある表現となっています。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科　入試問題（造形実技）参考解答集
平成 30 年度一般選抜（後期）試験

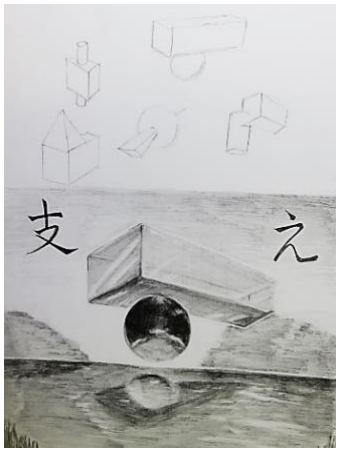
【問題】以下の各手順にしたがって，デッサンボードに表現せよ。その際，手順 1，手順 2 は，デッサンボードの画面を適宜，分割して描け。手順 3 は，デッサンボードの任意の位置に記せ。問題に明記された内容以外のことについては，自由に設定してよい。

＜手順 1＞　下記の 5 種類の立体から 2 種類を選び，その 2 種類の立体を組み合わせて，新しい立体を構想せよ。そのようにして，5 つ以上の新しい立体を構想し，デッサンボードに描け。直方体　四角錐　三角柱　円柱　球　【手順 1 の留意点】立体の組み合わせ方を工夫すること。手順 1 では質感や陰影の表現は評価しない。
＜手順 2＞　手順 1 で作成した新しい立体から1つを選び，ある湖の水面上の空中に浮かんだ姿を想像せよ。立体の下端から水面までの距離は 1m とする。その立体の全景を，その湖とともにデッサンボードに表現せよ。立体の材質を具体的に設定し，表現すること。　【手順 2 の留意点】新しい立体を表現するのにふさわしい視点や構図をよく考えること。手順 2 では質感や陰影を表現すること。　＜手順 3＞　手順 2 の空間の構成の意図を表すタイトルを考案し，デッサンボードの任意の位置に明記せよ。　【手順 3 の留意点】タイトルの字数，配置をよく考えること。

解答例：　A



B



理解力：立体の種類や数，風景との組み合わせ，タイトルなど，問題の指示内容が守られています（A，B）。
構想力：明確な考えにもとづく立体の組み合わせが，6 つ示されています（A）。2 種類の立体の組み合わせにより，タイトルに示されている意図が，明確に表されています（A，B）。
創造性：四角錐を逆さにして，球に突き刺すという組み合わせ方に，創意工夫が認められます（A）。
構成力：直方体を球が支える構成（B）や，球から四角錐が放出するような構成（A）など，2 つの立体を対置することで，明快な空間構成となっています。遠景や，湖面にうつりこむ様子も描かれています（A，B）。タイトルの配置や大きさを検討しましょう（A，B）。
表現力：球の質感と，もう 1 つの立体の透明感とを対比して描くなど，双方とも陰影や質感の表現に優れています（A，B）。立体を見上げるような視点で描かれており，迫力のある表現となっています（B）。